

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん経験者に対する長期的支援の在り方に関する研究報告書

中国・四国ブロックの小児がん診療病院における長期フォローアップ体制の実態調査

研究分担者 小林 正夫（広島大学大学院医歯薬保健学研究院小児科学）

研究要旨：小児がんの治癒率の向上に伴い，小児がん経験者に対する長期的支援体制の構築が重要な課題となっている。今回，中国・四国ブロックの小児がん診療 17 病院における長期フォローアップ体制の現状・計画・目標について実態調査した。

現状では，小児がん診療病院が個別に小児がん経験者の長期フォローアップを行っていたが，今後は，日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）の長期フォローアップ委員会で作成している「長期フォローアップ手帳」を活用してブロック内で統一した内容の長期フォローアップ体制を構築することが必要と考えられた。

A．研究目的

小児がんの治癒率の向上に伴い，小児がん経験者に対する長期的支援体制の構築が重要な課題となっているが，小児がん診療施設における長期フォローアップ体制の情報は限られており，実態把握は十分になされていない。今回の研究では中国・四国ブロックの小児がん診療病院における長期フォローアップ体制の実態について把握することを目的とする。

B．研究方法

小児がん中国・四国ネットワークに参加している中国・四国ブロックの小児がん診療 17 病院における長期フォローアップ体制の現状・計画・目標について各病院へのアンケート方式で実態調査した。

C．研究結果

広島大学病院における長期フォローアップ体制の現状・計画・目標

（現状）

広島大学病院では小児血液・がん専門医を中心に図のような構成で小児がん長期フォローアップ外来体制を構築している。

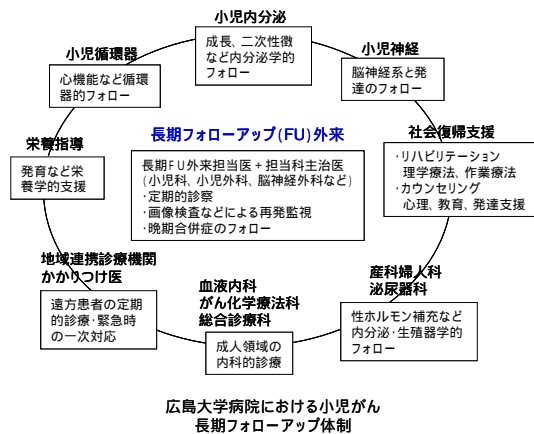
長期フォローアップ外来（基本は週 1 回の外来）の担当医および各科患者主治医は、本体制の多職種連携のもとに、患者ならびに家族のフォローアップを継続している。小児血液・がん専門医以外の内分泌，循環器，神経を専門とする小児科医師や内科医師，産科婦人科医師，泌尿器科医師の協力のもとに定期的な受診とそれぞれの専門的検査を施行し，特に治療合併症による晩期障害の有無とその治療，画像検査による再発監視と二次がんの早期発見などを中心に緻密なフォローアップを行っている。

また，JPLSG（日本小児白血病リンパ腫研究グループ）が作成した長期フォローアップ手帳の利用を開始し，経過中のすべての情報を患者，家族に提供することとしている。

更に，小児がん患者が抱える晩期合併症などの問題点に併せ，関係診療科などで適宜対応できる体制を構築している。当院で治療した患者は地域協力病院での診療も含め，最低年に 1 回の受診を義務づけている。

成人期に移行していく症例は長期フォローアップ外来を中心に血液内科医や総合診療科医師と連携して，患者さんの最適な治療や経過観察ができるように計画するとともに必要に

応じて地域での診療機関やかかりつけ医とも連携を行っている。



(計画・目標)

日本小児白血病リンパ腫研究グループ (JPLSG) の長期フォローアップ委員会で作成している「長期フォローアップ手帳」を活用して長期フォローアップを行う。広島大学病院は厚生労働科学研究「小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究」の長期フォローアップ拠点病院として活動している。すべての症例の追跡が可能な登録制度と診断と治療内容が明確にされた診療情報のデータを医療者のみならず患者本人が理解できる仕組みの構築を図る。長期フォローアップの基本は拠点病院，小児がん診療病院それぞれが、自施設を中心に行うが、「長期フォローアップ手帳」を活用してブロック内で統一した内容とする。晩期合併症に関しても、自施設でフォローアップ可能な疾患は自施設で、また特殊な治療や先進医療が必要な場合にはブロックを越えた連携を考える。

次に、中国・四国ブロックの小児がん診療 16 病院における長期フォローアップの現状・計画・目標について表に示す。

表 小児がん診療病院の長期フォローアップ体制

診療病院	現状	計画・目標
鳥取大学医学部附属病院	個別に長期フォローアップを行い、他診療科と連携	長期フォローアップを行い、他診療科・他施設と連携を深める
島根大学医学部附属病院	各施設が個別に長期フォローアップを行っている	拠点病院以外で長期フォローアップする際に患者情報を共有し、晩期障害を含めたフォローアップ体制の統一を図る
岡山大学病院	各施設が個別に長期フォローアップを行っている	地域内各医療施設で長期フォローアップする際に患者情報を共有し、晩期障害を含めたフォローアップ体制の統一を図る
川崎医科大学附属病院	各施設が個別に長期フォローアップを行っている	現状維持。
岡山医療センター	各施設が個別に長期フォローアップを行っている	ある程度統一したフォローアップガイドラインの作成
倉敷中央病院	各施設が個別に長期フォローアップを行っている	拠点病院以外で長期フォローアップする際に患者情報を共有し、晩期障害を含めたフォローアップ体制の統一を図る
広島赤十字原爆病院	長期フォローアップ外来として独立していないが、日常診察の中で長期フォローアップを行っている	長期フォローアップする際に患者情報を共有し、晩期障害を含めたフォローアップ体制の統一に向けて協力する
山口大学医学部附属病院	自施設で個別に長期フォローアップを行っている	長期フォローアップする際に他施設患者情報を共有し相談する

徳島大学病院	施設が個別に長期フォローアップを行っている	拠点病院以外で長期フォローアップする際に患者情報を共有し, 晩期障害を含めたフォローアップ体制の統一を図る
徳島赤十字病院	個別に長期フォローアップしている	現状維持
香川大学医学部附属病院	定期的に長期フォローアップしているが、引越しや成人になった人は他施設や他科への紹介を行っている	定期的に長期フォローアップしていく ご家族や本人の希望を確認し, 他施設や他科への紹介を行っていく
四国こどもとおとなの医療センター	個別に行っている	拠点病院で定期的に行っていくことを希望
愛媛大学医学部附属病院	各施設が個別に長期フォローアップを行っている	拠点病院以外で長期フォローアップする際に患者情報を共有し, 晩期障害を含めたフォローアップ体制の統一を図る
愛媛県立中央病院	各施設が個別に長期フォローアップを行っている	長期フォローアップする際に患者情報を共有し, ガイドラインに準拠した晩期合併症を含めたフォローアップ方法の統一を図る
高知大学医学部附属病院	各施設で長期フォローアップを行っている	施設内での長期フォローアップを継続し, 拠点病院を中心としてフォローアップ体制を整備する
高知医療センター	独自にフォローアップしている	患者情報を共有し, 晩期障害を含めたフォローアップ体制に参加する

D. 考察

現状では、小児がん診療病院が個別に小児がん経験者の長期フォローアップを行っているのが実態であった。

今後の計画・目標としては、各小児がん診療病院が自施設を中心に長期フォローアップを行うことが基本であるが、中国・四国ブロックにおいて長期フォローアップ体制の基盤事項を共有することで、連携病院内でのフォローアップ体制を構築することが必要と考えられた。

この際には、日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）の長期フォローアップ委員会で作成している「長期フォローアップ手帳」を活用してブロック内で統一した内容の長期フォローアップを行うことが有用と思われた。

E. 結論

中国・四国ブロックの小児がん診療 17 病院における長期フォローアップ体制の現状・計画・目標について実態調査した。

小児がん診療病院が個別に小児がん経験者の長期フォローアップを行っているのが現状であったが、今後は、「長期フォローアップ手帳」を活用してブロック内で統一した内容の長期フォローアップ体制を構築することが必要と考えられた。

F. 研究発表

該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

特になし